

## 複数指導

### ○少人数授業の問題点

1. 2クラスに分けて、2人の教師が、同じ授業をするのがむずかしい。  
おさえるべきポイントもずれてくる。  
教師の個性によって授業の流れが相違する。
2. 授業の進度が、合わない。
3. 能力別に編成すると、学級指導上の問題が、発生する可能性が大である。
4. 能力別に編成すると、内容、進度が大きく相違する。

### ○複数指導の方が、いいのではないか？

### ○教師にとって、楽ではあるが、効果の程度が問題である。

### ○こんな視点で複数指導を反省してみてもどうでしょうか。

1	指導案をかき、本時の指導のねらいについて具体的に共通理解できていたか。
2	1時間の中でのお互いの動きや子どもへのかかわりの計画は、できていたか。
3	操作や動作化等子どもの思考の過程を把握し、指導できていたか。
4	個別に子供にかかわる場面は、適切であったか。
5	個別指導にかかわった子どもへの対応は、適切であったか。
6	授業は、 $1+1=2+\alpha$ になっていたか。
7	複数指導の方が少人数授業より効果が上がっていると感じたか。
8	個別指導の側にいる先生が何をしているか、何をしようとしているかを子どもが、理解していたか。
9	担任が、個別指導の方へまわる方がいいか。
10	授業後の放課後等で個別指導の計画はあるか。

どちらにしても、2人の先生が、1学級を指導していくのは、かなりむずかしいし、多くの労力が必要である。  
1学級の定員を少なくするのが、最良の方法ではないか。  
少なすぎると競争心がなくなり、活気が薄れ、  
やる気をなくす子供が増える。  
20~25人ぐらいだろうか？

## 提 案

実際、毎日の授業で、きちんと打ち合わせをし、指導案もきちんと用意して、授業をしていくということは、大変難しい問題である。しかし、少人数授業・複数指導をしなければいけない状況はある。そこでせめて、これぐらいをしたらどうだろうかという提案を書いてみる。

### 1. 少人数授業

○主となる教師が、授業の簡単な流れをかく。

1. はじめ
2. 中
3. おわり

○1時間におさえるべき指導内容を明確にする。

- 大きくは、
1. 教える内容
  2. 考えさせる内容

○授業内容を均等化するため、2つに分ける子どものメンバー構成は、少なくとも1週間に1回はかえる。毎回変えるのがいいと思う。

○できるだけ、細かい打ち合わせをする。(なかなかできないのが現状である。)

### 2. 複数指導

○授業の流れを固定化する。

(算数の場合)

1. 問題把握
2. 自力解決
3. 学びあい
4. まとめ・振り返り

○流れの中で、お互いにどう動くか打ち合わせをしておく。

T2の動き

1. 問題把握：理解の困難な子供について説明を加える。
2. 自力解決：手分けして、T1もT2も個別指導に当たる。
3. 学びあい：補足説明をしたり、子どもの発表を支援する。
4. まとめ・振り返り：手分けして、T1もT2も個別指導に当たる。

○T1が、簡単な授業の流れをかく。

○T2が、その流れを見て、自分の動きを考える。

T2は、T1の指示で動くのではない。T1の授業の流れを見て、自分の動きを考え、1時間の流れを組み立てるのである。

※たとえば、個別指導のとき、個別にまわりながら「A/B/C」等評価を赤ペンで入れていったり、良い見方や考え方には、赤線を入れていったりする。算数などにおいては、考える手立てを示してやるなどすると効果が上がると考える。

## 問題解決学習は、複数指導に適している。

なぜなら、問題解決学習では、1時間の授業の中で、半分は、個別指導に当てているからである。

### ○問題解決の学習展開において

1. 問題把握	T2が、T1に質問をしたり、問題の補足説明をしたりできる。 それによって、子どもの問題に対する把握が十分にできる。 問題を把握できなければ、どうしようもないわけであるから T2 の「つっこみ」は、大切である。
2. 自力解決	2人で個別指導できるから、よりきめ細かな指導ができる。 この場面では、授業の半分を使っているのであるから、効率よく個別指導ができる。 低学年においては、ここでほとんどの子どもたちが、問題を解決できる。
3. 学びあい	ほとんどの子どもたちが、問題を解決していれば、コミュニケーション能力の育成に力を入れることができる。そうすれば、いろいろな場面でその能力は、有効に働くと考えられる。また、自力解決の場面で解決できなかった子どもに、T2が、かかわることで、この場面で救うことができる。
4. まとめ ふりかえり	T1とT2と子どもたちでまとめることができるので、より確かな定着が期待できる。 また、定着のための練習問題をすると、2人で個別指導ができる。

### ○考察

「落ちこぼれ」をつくらないようにするには、個別指導が、最適であろう。しかし、お互いを高めあう学習を行うには、一斉指導がいい。問題解決学習は、一斉指導のよさを維持しながら、個別指導を取り入れた授業である。複数指導には、適した学習展開である。

教師主導型の一斉指導では、複数指導のよさは、発揮できない。教師主導型の一斉指導をするのであれば、学級を2分して、少人数授業を行うほうが効率があがるであろう。

ほとんど落ちこぼれをつくっていないという状態を維持できるのは、問題解決の学習展開で複数指導を行っている成果であると考え。複数指導だからといって特別なことをする必要はない。1時間の授業の中にしっかりと個別指導の時間を確保し、落ちこぼれをできるだけ少なくしていくことであると考え。